

明治神宮第二球場の解体工事等に伴う樹木の移植伐採着手についてのご報告

本日、明治神宮第二球場の解体工事等（以下、本工事）に伴う移植伐採作業に着手いたしました。移植伐採作業にあたってのみどりの取り扱い方針および本日実施した移植伐採作業の様子について、以下の通りご説明いたします。

今後も計画内容やみどりに関する取組みについて、公式ウェブサイト等で情報発信を行ってまいります。

1. 移植について

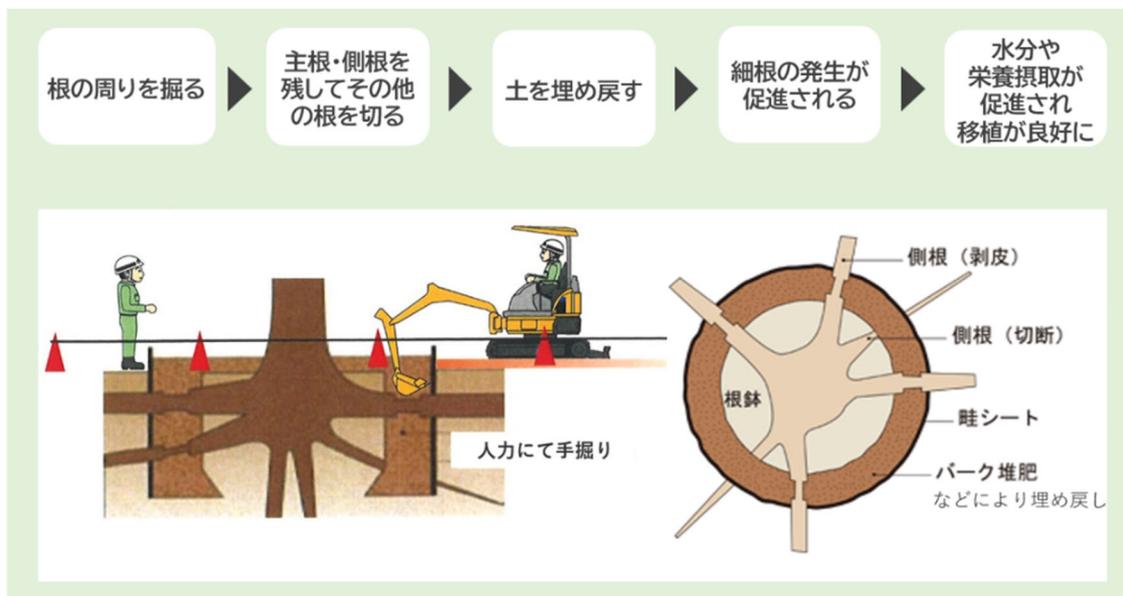
移植にあたっては、樹木医の立会い・指導のもと、以下の①～④の工程で作業を行います。本工事における①の作業については既に実施済みで、本日は一部樹木について②～④の作業を実施いたしました。

なお、以下の工程は一例であり、環境影響評価書等（※）でお示ししている方法に基づき、各施設の整備計画にあわせ、適切な時期・手法を選択してまいります。

※2024年11月8日追記：右記のとおり訂正いたしました。（誤）環境影響調査評価書等 （正）環境影響評価書等

①移植の事前準備（根回し）

根回し作業とは、樹木移植に先立って行う一連の準備作業です。細根の発生を促進することにより、水分や栄養摂取が促進され、移植後の根付きが良好になります。



②剪定

移植後に根からの養分・水分の吸収と葉からの蒸散のバランスをとるために、あらかじめ一部の葉等を剪定して枝葉量を調整します。

③養生・運搬

大きな環境の変化を避けるために、移植工事中の運搬時間を極力短くし、樹木自体に損傷を与えないよう、根鉢・幹・枝等を養生して運搬します。



養生した移植樹木を吊り上げる様子



運搬車両に積み込む様子

④植付け

移植先はまとまったエリアを確保し、良質な植栽客土を敷き詰めることで根付きを良くするとともに、土中に根が伸びるスペースを十分に確保します。舗装面からの照り返しや乾燥にも配慮し、健全な植栽環境とします。



移植先で植え付け作業を行う様子

2. 伐採について

本計画では、1本1本の樹木を大切に扱い、可能な限り多くの樹木を保存できるように配置配棟を検討していますが、現地保存が困難と判断された樹木は移植を行うこととしています。

一方で、「重点対策外来種」「既存施設に近接し、移植に必要な根回しができない」「樹勢等が弱っている」等の理由により、移植が不可能と判断された樹木や移植後の健全な生育・樹形の維持が困難と見込まれる樹木はやむを得ず伐採いたします。



伐採対象樹木の切断の様子

やむを得ず伐採した樹木については、環境に配慮しながら適切な利活用を検討のうえ実施してまいります。

以上